

目的 家庭科の授業にパソコンを導入することについては、すでにいろいろな試みがなされ、研究発表もなされている。しかし、どのような分野にどのような手順で導入するのがよいのか、いずれも模索の段階を脱していないと考える。そこで、家庭科へのパソコン導入のあり方を検討する目的で、今回は現職にある家庭科教員がパソコン導入についてどのように考えているのかアンケート調査を行った。

方法 アンケートは、長野県に所在する公立の中学校・高等学校で家庭科を教えている教員を対象とし、学校宛に郵送で依頼した。解答者は各学校1名をお願いし、個人の意見を求めた。質問項目は、主として、パソコンの使用の有無、所属校におけるパソコン設置の現状、家庭科のパソコン導入の現状、家庭科の授業への導入に関しての意見などである。

結果 アンケートの調査結果、有効回答数は164、その回収率はやく67%である。回答者の構成は、中学校教員が59.8%、高等学校教員が40.2%である。教員としての経験は、2-5年が最も多くやく27%、次いで6-10年が中学校では24%、高等学校では18%が多かった。年齢区分は、中学では26-35才がやく40%を占め、高等学校では中学校教員の年齢よりやや高齢である。授業用としてのパソコン利用の割合は11%である。しかし、導入することが有効であると考えている人は、中学では80%、高校では45%であった。今後の問題としては、ソフトの開発はもちろんのこと、設備を整える、勉強の機会を持ちたいなどの希望が多かった。